

地域トピックス

◆すくすく育つぞ！(附馬牛町)

「キッズ体操教室」(附馬牛地区センター主催)が、12月12日から全4回の日程で開催されています。この教室は、低年齢からの運動能力向上などを目的に附馬牛保育園のあか・きいろ・みどり組の園児32人が参加しています。

第1回目の教室では、片足やお尻で体を支えたり遊びを加えたストレッチをしたりと、平衡感覚や体の柔軟性を高める運動を行いました。園児らは「頑張れ」とお互いに声を掛け合いながら、元気いっぱい体を動かしていました。



おしりでバランス、ハイ・ポーズ!!

◆親子で紙粘土工作(青笹町)

青笹児童館主催の紙粘土教室が1月9日から3日間、同児童館で行われました。

青笹駐在所に勤務する福岡厚至主任が講師となり、110番の日にちなんだ講話と、趣味で続けている紙粘土工作を指導。参加者は、ピエロの形に粘土をこねた後、思い思いの色付けをして楽しみました。

菊池明弘さん、健斗君親子は「思っていたよりも立派にできました。これを冬休みの工作にして出します」と笑顔で話していました。



ピエロの形の粘土に色付けして出来上がり



20万人目の利用者となった山内美智子さん

◆おめでとう！20万人

一月十四日、小友町の農産物直売加工施設「産直ともちゃん」の利用者が二十万人を達成しました。二十万人目の利用者となったのは、娘の部活動の遠征で小友中学校を訪れていた矢巾町の山内美智子さん。農産物などが入った豪華な記念品が贈られ「びっくりしました。焼きたてのパンがおいしいので、ここを通る際は必ず寄っています」と笑顔で話していました。「産直ともちゃん」は平成十五年四月に開店。開店から四年目での達成に小松福志組合長は「これからも食の安全・安心に配慮して、お客さまに選ばれる商品を提供していきたい」と話していました。



「コンパスを買いませんか？」と商談を進める子どもたち

◆交渉って難しい

起業家教育「トレーディングゲーム」モデル授業は一月二十三日、遠野北小学校五年一組の児童三十三人が参加して行われました。この授業は、ゲームを通じて経済や社会の仕組みを学ぶもので、八チームに分かれて紙から円形や三角形を切り取った商品を販売して「一番のお金持ち」を目指しました。紙や道具を交渉でやり取りしなければならず、時には大地震や銀行の経営難などのさまざまなハプニングが起こることも。長沼ひろかさんは「物やお金を取引するのが、社会人になったようでおもしろかった」とゲームを振り返りながら話していました。

◆新成人、夢と希望の船出

平成十九年新成人式は一月七日、市民センター大ホールで、新成人三百七十六人のうち三百三十一人が出席して行われました。新成人でつくる実行委員会が主催し、テーマは「絆」。実行委員長菊池徳幸さん(青笹町)が「大人としての自覚を持ち、責任ある行動を心掛けたい」とあいさつ。新成人を代表して小水内健児さん(青笹町)が「人との関わりを大切にしていきたい」、小原直子さん(宮守町)が「世の中に貢献できるようにまい進していきたい」と二十歳の抱負を述べました。また、成人者全員が父母らに拍手を送り、感謝の気持ちを伝えました。



実行委員らが餅まきをして門出の日を祝いました



式典終了後には、旧友らとの記念撮影

◆安心・安全の町へ決意新たに

市交通指導隊(湊文忠隊長)と市防犯隊(奥寺榮一隊長)の初点検は一月八日、あえりあ遠野中ホールなどで行われ、事件や事故のない安心・安全な町づくりのために決意を新たにしました。交通指導隊の初点検では、本田敏秋市長が隊員二十五人の服装や手帳を点検し、「交通事故を起こさない」という市民の意識を確立する取り組みに、「一層の努力をお願いしたい」と訓示しました。同指導隊の湊隊長は「今年も死亡事故ゼロを目指して、特に子どもたちに交通ルールの基本を教える活動をしていきたい」と話していました。



交通指導隊員の服装などを点検する本田市長ら



学校主催の歓迎会で校長先生を囲んで和やかに

◆異文化を学び、貴重な体験

中学生海外派遣交流事業が行われ、一月九日から十八日まで市内中学生九人と引率二人が、アメリカネネシー州チャタヌーガ市を訪問。ホームステイしながらCSLA校に通い、異文化を学びました。団長の遠野中二年菊池敏文さんは、「自立心を高めるために参加しました。食事の仕方や生活習慣も違い、初めは戸惑いました。夜に行われた学校行事のダンスパーティーは初めての体験。とても楽しかったです」と話してくれました。引率の熊谷ゆう子先生は「生徒たちは適応力があり、コミュニケーションをとっていく姿にたくましさを感じました」と話していました。